

INTERNATIONAL SOCIAL SERVICE JAPAN

INTERCOUNTRY

インターカントリー

日本を襲った東日本大震災の影響 —ISSJに出来ること—

ISSJソーシャルワーカー 大場 亜衣

東日本大震災は、甚大な被害をもたらし、日本国民のみならず、世界中の人々に衝撃を与えました。そして、私たちひとりひとりに、被災地、そして被災された人々を救うために、何が出来るか、何をすべきか、という問いを投げかけました。当事業団の職員も、日々の業務のなかで、世界各地の人々が日本の窮状に心を痛み、善意の手を差し伸べようと努めていることに心を動かされました。また、以前に当事業団が支援をした人々が、今は日本から遠く離れた地で暮らしながらも、日本にエールを送り、被災された人々に心を寄せてくれていることを知り、私たち自身も励まされました。

まず、震災後に、国際養子縁組に関する問い合わせが急増したことは驚きでした。アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、カナダ、スイス、トルコ、シンガポール、台湾、フランス、香港、ルーマニアなど、様々な国と地域に住む60以上の家族から、遺児となった子どもたちを養子に迎えることはできないか、という問い合わせを受けました。ひとつひとつの問い合わせに対し、震災遺児のほとんどは、親戚に引き取られていること、当事業団には、遺児の親族やその関係者から、養子縁組に関する相談が寄せられていないことを説明しました。問い合わせをされたご家族のなかには、当事業団の「国際養子縁組プログラム」を理解され、震災遺児ではなくても、家庭を必要としている子どもたちが日本にいれば、養子として迎えたい、と考えられ、お住まいの国で家庭調査を受けた上で、正式に当事業団に養子縁組を申請されたケースもありました。

当事業団のマッチングにより、養子縁組され、現在は米国で暮らす養子たちも、日本で暮らす実親や親族の安否を気遣い、想像を絶する被害に心を痛めていました。米国人夫妻に養子縁組された3兄弟は、被災地を支援するために、学校の募金活動に参加しました。現地の赤十字社を通じて義援金を送られた家族もたくさんいました。実母が東北地方出身だったことを記憶にとどめていた養親や養子のなかには、当事業団に対し、実母の安否確認を求めてきたケースもありました。こうした依頼に応えるべく、当事業団は、実母たちに手紙を出しました。連絡の取れた実母たちは、養子に出して何十年も経ているのに、実母を思いやるわが子やその養親たちに感謝の念を表しました。養親や養子たちに、実母の無事と実母から託されたメッセージを



伝えると、安心してもらうことができました。これを機に、実母と養子との間で交流が始まったケースもありました。震災を経て、養子縁組事業には、こうしたフォローアップ体制が不可欠であることが改めて浮き彫りになりました。

40年以上も前に、当事業団を通じて養子縁組され、数年前には、当事業団の支援を受けて日本に住む親族との再会を果たした女性も、米国の赤十字社を通じて、義援金を送られました。また、当事業団のスタッフを励まそうと、温かいメッセージと共にお菓子の詰め合わせを贈ってくれました。この他にも、北米、欧州で暮らす家族やISS支部、海外の協力団体などから、事務所や職員の無事を気遣うメッセージや寄付も寄せられました。当事業団の活動が多くのの人々の善意に支えられていることを感じずにはいられませんでした。

また、国際結婚が破綻し、日本人妻が子どもと共に日本に帰国したまま、連絡が取れなくなっている外国人夫たちからは、子どもの安否を知りたいという相談も寄せられました。日本人の妻は、外国人の夫との音信を拒んでいることが多く、当事業団からの働きかけに応じることは少ないのが実情です。そのため、妻子の現住所を確認し、被災地ではないことを伝え、夫の不安を軽減することしかできないケースもありました。現在、日本国内においても、1980年ハーグ条約（国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約）の批准に向けた動きが加速しています。今後も、条約加盟への動きを注視しながら、取り残された親のみならず、子どもと共に日本に帰国した親からの相談にも応じていきたいと思ひます。

震災から半年以上が経った現在は、震災を理由とした相談は減っていますが、複雑化、多様化した家族背景を軸に、様々な問い合わせが寄せられ続けています。今後も、子どもたちやその家族を支えるため、スタッフ一同、力を合わせて業務に取り組んでいきたいと思ひます。



ISSアジア太平洋地域会議の報告

事務局長 伊部亜理子

6月16日、17日、18日に台北市でISSアジア太平洋地域会議が開催されました。この会議はアジア太平洋地域のISS支部がほぼ毎年持ち回りで主催国となるのですが、今年はISS台湾が地元の支援組織であるE-CPA Foundationの後援を頂いて台北市での開催となりました。会議にはISS台湾から2名、ISS香港から2名、ISSフィリピンから2名、ISSオーストラリアから1名、ISS日本から1名の参加で、昨年は東京で開催されましたので各国代表とは1年ぶりの再会となりました。

一日目は各支部からの近況報告、ネットワーク発展のための戦略構想、アジア太平洋地域の懸念事項に関する活発な意見交換などが行われました。二日目は社会福祉施設の視察で、ISS台湾がコンサルティングで関わっている台北市郊外の老人デイケアセンターおよび病院に隣接した老人施設を訪れ、三日目には台北移民サービスセンターを訪れました。ISS台湾が台湾に移住してくる特に女性や子ども（中国本土からが増加していますが・・・）を対象に料理、運動、学習支援など様々な支援プログラムを持っていることも学びました。また忙しい会議・施設訪問スケジュールの合間に国立故宮博物館の見学や夕食会も組み込まれていて、主催国のおもてなしの心が感じられました。

第11回 フィリピングローバル コンサルテーション参加

— 11th Global Consultation on Child Welfare Services —

ISSJ ソーシャルワーカー 田中 美結

8月17日から19日まで、フィリピンの国際養子縁組当局であるICABが開催する国際会議に出席しました。20カ国から260名以上が参加した今回は「子どもの権利を守る 海外提携団体との協力」という議題で、特に人身売買から子どもを守るための議論が交わされました。

不正に入手したお金を金融機関に預金、そこから送金する等してお金の出所を隠蔽することをマネーロンダリング(資金洗浄)と言いますが、悲しいことに国際養子縁組でも同じことが起きています。違法な手段で「調達」した児童を、海外の養親と合法的に養子縁組させることで、「洗浄」という仕組みです。不正に子どもを調達する方法は、誘拐や人身売買に限りません。フィリピンでは、血縁関係がない場合、実母が養親を選ぶことを禁止しています。両者の金銭のやり取りは、例えば出産費用でも人身売買とみなされます。また、出生届や孤児証明書の偽造も犯罪です。会議では、被害者への救済・支援と同時に、予防策としてフィリピン国内の貧困の撲滅も課題としてあげられました。声なき子どもたち、貧しい母親たちが犠牲になることのないようにと、気持ちを新たに三日間でした。



カンボジアプロジェクト紹介

ISSJ ソーシャルワーカー 重藤 裕子

ISSJはカンボジア・プノンペン市中心部で、国際ボランティア貯金の配分を受け、『貧困家庭の子どもたちのための識字教育及び母親への自立訓練プログラム』を進めています。ウナロム寺院内のひろしまハウスで活動を始めて3年がたち、今プログラムは転換の時期を迎えています。プログラム開始当初は、授業中落ち着いて机の前に座ってられる子どもは少なく、また掃除・片付けの習慣もないため大切な文房具やおもちゃもあつという間に紛失してしまう状態でした。ようやく食事前の手洗いの習慣もつき、使った物品ももとの場所に戻せるようになりました。こうした子どもたちの成長も受け、今年度は新たに大阪コミュニティ財団からの助成により、ひろしまハウス2階の1室にコンピューター室を設けることができました。



今直面している一番の困難は、このプログラムを遂行していける人材の育成・確保といえます。大卒初任給が90ドルといわれるこの国では、生活するのが精一杯という人が大半です。特に若い人たちは、余裕のある生活を求め常により良い条件の職を探しています。このような状況で、子どもたちの幸せが自らの喜びとなるような人材に出会えたら、プログラムの半分以上は成功したともいえます。彼らの熱意をより引き出せる方法を、日本での研修の可能性も含めて検討しています。



最後をお願いになってしまいますが、物価の上昇に伴って給食費が足りなくなっています。市場での肉の値段も1キロで5ドル前後。貧しい家庭ではめったに手の届かない値段です。せめて一日一食の給食だけでも、蛋白質と野菜のバランスが取れたご飯をたっぷり食べさせてあげたい。約50円で子ども一人の一食分、約3000円でプテアに通ってくる子どもたちの朝食、昼食とおやつ一日分がまかなえます。また、子どもたちに大人気のダイヤブロック、もしお手元に使われないうまの物がありましたらおゆずりいただけないでしょうか。皆様のご理解とご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。



国際養子縁組援助のケース

ISSJが支援している国際養子縁組のケースについて経過報告をします。血縁のない親と子の養子縁組ですが、3月にカナダ夫妻に委託された女兒の養子縁組は無事に家庭裁判所の審判が下りました。親子共、適応は順調で、楽しい夏休みを過ごしています。この夏には祖父母、親戚が待っているカナダへ里帰りしました。また、アメリカ人夫妻に3歳の子どもを委託しました。最初はお父さんにべったりだったのですが、時がたつにつれてお母さんにも甘えるようになりました。今では、親子3人毎日が幸せで、この子のいない生活は考えられない、と両親は言っています。

3月11日の大震災で、ISSJの養親候補者の中には、日本を去った方も少なからずいます。また逆に震災以降、欧米から、震災で親を失った子どもを養子縁組したい、という問合せが80件以上寄せられました。そのような申し出には、日本人として感謝の意をお伝えするとともに、多くの子どもたちが親戚に引き取られており、国際養子縁組を必要とする子どもは今のところ当事業団には紹介されてきていない旨をお伝えしました。（財団法人JKA補助事業）

国籍取得・送還援助のケース

子どもの福祉を守るために本国送還の援助をした最近のケースを報告します。ISSJは、大使館の前で一人立ち尽くしていたところを保護されたフィリピン国籍の男の子(4歳)に対する援助依頼をフィリピン大使館から受けました。彼の持ち物の中には母親が書いたとみられるメモがあり、フィリピンに住むの彼の祖父母のところへ送って欲しいということが書いてありました。男の子はその後警察を通じて児童相談所に一時保護され、ISSJでは実母を探すと共に、フィリピン社会福祉開発省(DSWD)へ連絡し、本国送還に向けて手続きを始めました。幸運にもその後、母子の知り合いを名乗る同国人女性が現れ、彼と一緒にフィリピンへ帰国することを申し出てくれました。DSWDによるフィリピンでの調査で、祖父母は孫である男の子の引取りが可能であることが確認され、帰国が実現しました。3ヵ月後のDSWDからの適応報告では、帰国当初、祖父母間のフィリピン語でのコミュニケーションが不自由でしたが、現在は元気にたくましく暮らしていることが写真と共につづられていました。（財団法人日本財団援助事業）

難民申請者への援助

ISSJは難民申請者・難民に対しカウンセリングを提供しています。これまで主に入国管理センターへ収容されている申請者を訪問してのカウンセリングを行なってきました。今年は加えて3月10日に、難民や難民の支援にかかわる人たちを対象に、「難民のこころの問題」がテーマのワークショップを行ないました。講師は長年外国人のメンタルヘルスに関わってきた精神科医の野田文隆先生。会場である寺島文庫Caféみねるばの森の親しみやすい雰囲気も手伝い、30人以上の参加者が現場で出会う問題について率直に話し合う時間を持つことができました。

人が異文化の中で生きていかざるをえないとき、特に言葉が理解できず、通訳として助けてくれる人も全くないとき、その人の苦難は想像を超えるものがあります。加えて、それが生まれ育った国で迫害を受けてきた人であるならば...そして異文化の中で安定した滞在許可も得られず、逼迫した生活を余儀なくされるならば...。難民に限らず多くの人の興味を引き得るテーマであり、二回目のワークショップを企画中です。（UNHCR委託事業）

補助金、助成金事業完了のご報告

この度、平成22年度、財団法人JKA（旧日本自転車振興会）補助金、財団法人日本財団助成金、独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構 国際ボランティア貯金寄附金の交付を受けて下記の事業を完了致しました。ここに、ご報告と共に感謝の意を表します。

平成23年4月完了

JKA

「国際的児童難民家族相談等補助事業」

日本財団

「国境を越えた未成年者への家族再会援助」

平成23年6月完了

国際ボランティア貯金

「カンボジアの貧困家庭の子どものための識字教育及び母親への自立訓練（給食実施）プログラムの実施」



第63回チャリティ映画会・バザーのご案内

日時 : 10月19日(水) 上映時間 11:00、14:45、18:30
場所 : 一ツ橋ホール(日本教育会館3F)
上映作品 : レオニー(日本・アメリカ合作映画 上映時間132分)

いつも映画会にお越し頂き誠にありがとうございます。6月29日に開催された第62回映画会は30年以上続いてきた映画会の歴史に残る会となりました。それは3月11日に起こった東北大震災で九段会館が使用不能となり、開催を巡って議論され、改めて映画会がISSJの事業を支える重要なイベントとして認識され、急遽、会場を一ツ橋ホールに変更しての開催となったからです。無事終了することができましたのも、ひとえに皆様からのご支援、また幅広いボランティアネットワークに支えられてのことと心より感謝申し上げます。

今回は、ユダヤ人排斥という逆境にも負けず、昔の仲間を集めポリショイ交響楽団に成り済ましてパリ公演を行う元天才指揮者の姿を描いたユーモア、涙、バイタリティあふれた映画「オーケストラ!」を上映し好評でした。また、新会場に関しても「すわり心地が良い」「見やすい」「バザー会場がやや狭い」など色々なご意見を頂戴しました。今後の運営に生かしていきたいと思っております。第62回チャリティ映画会で皆様から頂きましたご支援は参加券、募金、バザーへのご協力を合わせて2,724,098円でした。今回はご協力金の一部をパスポート取得支援や生活支援など東日本大震災で被災した外国人、難民にも使わせて頂きました。皆様のご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

次回第63回映画会は2011年10月19日(水)で、上映作品は「レオニー」です。天才彫刻家イサム・ノグチの母親レオニー・ギルモアの波乱に満ちた生涯を描いた松井久子監督の作品です。20世紀初めというまだ日本に外国人女性が少ない中であって、偏見や逆境に負けず「自分の責任で」強く自分の人生を歩み、かつ、わが子を育てる姿が描かれております。

同時開催のバザーもボランティア手作り品、協賛企業からの提供品、アジア製品など豊富な内容となっております。皆様のお越しがISSJ映画会へのご参加が多くの子ども達の援助に役立っております。ご来場を心よりお待ちしております。



レオニー

天才彫刻家
イサム・ノグチの原点—
母レオニー・ギルモアの
波乱に満ちた生涯



(c)レオニーパートナーズ合同会社



田中 美結



4月にISSJに入団するまでは、DVや性暴力の被害者へのカウンセリング、留学生や難民の支援をしてきました。国際社会福祉を学びに行った留学先のスウェーデンで、国際養子、難民としてそれぞれ海を渡ってきた友人たちに出会ったことがきっかけで、国際社会福祉の中でも特に、国際養子縁組と難民に焦点を当てた活動がしたいと思い、ISSJに興味を持ちました。

ISSJでは主に国際養子縁組担当のソーシャルワーカーとして養親候補者から、また子どもを育てられなくて困っている実母からの相談にのっています。家庭調査で養親の真摯な姿勢にはっとさせられたり、不妊治療の経験を語る養親と涙したり、ケースを通じてたくさんのことを既に学んできました。親になったことがない私は、経験不足なことは否めません。でも、今後も経験豊かな先輩方に教わりながら、子どもの幸せを第一に考える専門家として活動していきたいと思えます。これからどうぞよろしくお願致します。

ステラ オカンポス



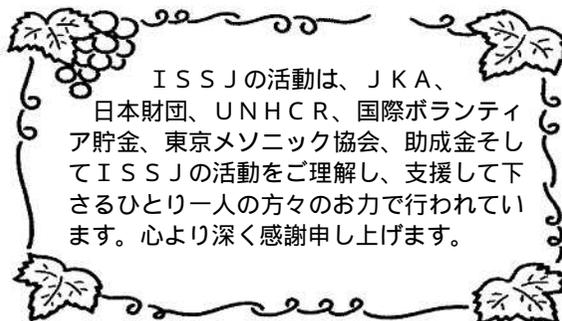
2011年4月からフィリピン人のソ・シャルワ・カ・として働いています。1995年に家族と来日しましたが、それ以前も様々な福祉の分野で働いていました。育児放棄や遺棄された米国人とアジア人の混血児のためのパ・ル・バック基金でのケ・ス・ワ・ク、マニラのスラム街での家族の健康相談、子どもの教育支援及び貧困家庭のための収入を生み出すプロジェクトに携わりました。また、1988年に全国社会福祉協議会が後援するアジアのソ・シャルワ・カ・のための1年間のトレーニング・プログラムにも参加しました。ISSJでは、無国籍のフィリピン人の子どもの国籍取得援助、未成年者のフィリピンへの送還手続き援助、フィリピン人の国際結婚相談やその他養子縁組、虐待等様々な問題を援助しています。ISSJで働くことは、私にとって名誉なことです。この5ヶ月間は、福祉活動から離れていた私に福祉の知識と能力を再び取り戻す良い機会となりました。困っている同胞のフィリピン人を援助し続け、福祉の専門的知識や経験を深めていきたいと考えています。

ISSJ活動報告2011年1月 8月

1月	12日 UNHCRと打合せ 19日 FRJミーティング出席 28日 ウィンターハーブコンサート開催	21日 FRJミーティング出席 23日 新宿区女性海外研修者の会で大森常務理事講演 26日 外務省打合せ
2月	16日 米国大使館と打合せ 17日 FRJミーティング出席 25日 寺島文庫訪問	5月 8~16日 カンボジア出張(大森、重藤) 16日 第330回理事会・第156回評議員会 23日 UNHCR監査 28日 鶴見大学-UNHCRシンポジウム開催
3月	1日 UNHCR-ISSJミーティング出席 10日 外務省難民問題意見交換会出席 10日 難民ワークショップ(寺島文庫カフェ) 11~24日 カンボジア出張(重藤、石川) 12日 UNHCR講演会 15日 FRJミーティング出席 16日 日本財団監査 25日 難民協議会ミーティング 28日 久良木乳児院訪問 30日 第329回理事会・第155回評議員会	6月 13日 FRJ役員会出席 16~18日 ISSアジア太平洋地域会議出席(伊部) 20日 UNHCRデイ 29日 第62回ISSJチャリティ映画会バザー開催
4月	11日 外務省打合せ 12日 法務省打合せ 18日 外務省打合せ 19日 JKA補助金伝達式出席	7月 1日 UNHCR副高等弁務官との意見交換会に出席 東京!ソソクラブ50周年記念式典・祝賀会に出席 3~16日 カンボジア出張(重藤、石川) 17~19日 フィリピングローバルコンサルテーション参加(田中) 27日 UNHCR-ISSJミーティング出席
		8月 11日 横浜北部児童相談所ソーシャルワーカーとケース会議 23日 厚生労働省訪問 25日 JKA補助事業交付要望事務手続き説明会出席 26日 外務省難民問題意見交換会出席

インターカントリー第41号 2011年8月31日発行

発行：社会福祉法人 日本国際社会事業団
International Social Service Japan (ISSJ)
発行責任者：常務理事 大森邦子
発行所：〒153-0051東京都目黒区上目黒3-6-18
西村ビル601号
TEL：03-3760-3471 FAX：03-3760-3474
IPTEL：050-5527-0968
E-Mail：issj@issj.org URL：www.issj.org



ISSJの活動は、JKA、日本財団、UNHCR、国際ボランティア貯金、東京メソニック協会、助成金そしてISSJの活動をご理解し、支援して下さるひとり一人の方々のお力で行われています。心より深く感謝申し上げます。